

楠本憲吉

歲時記



楠本憲吉歲時記

楠本憲吉歳時記

定価 780円

著 者 楠 本 憲 吉
発 行 者 海 老 名 潔
印 刷 協同印刷株式会社

発行所 東京都港区南麻布1丁目3-15

文 陽 社

(電話) 03-451-2464

(振替) 東 京 8 4 8 6 7

— 7 3 9 6 —

まえがき

おこがましい題だとは思ったが、思い切って、『楠本憲吉歳時記』と題してみた。くだけていえば、私好みの季題に関する随想集と受け取って下さればいい。

「歳時記」ということばは日本人好みの単語である。それかあらぬか、歳時記を附した本の題名が多い。

「きもの歳時記」「たべもの歳時記」「すまい歳時記」に始まって「サラリーマン歳時記」「風流歳時記」「お天気歳時記」「ハワイ歳時記」から「セックス歳時記」に至るまで――。

歳時記は日本の文学史上の創造物で、他国に類例をみないユニークなものである。いったい、歳時記は、一年中の月次日次つきなみひなみに行われるべき、祭、儀式、そのほか百般の年中行事を記録したもので、もとはといえば帝王学の教科書みたいなものだったのだ。それが中国から日本へ入って来、大きく変質して、季節の題目を集め、分類配列するという『季の詞』ことばという文学的なものとなったのである。

そして一千年以上もかかって、ひとつひとつのことばに執着し、磨きあげ、日本人の美意識と

生活の知恵とていふした、みごとにことばの集大成ができたわけである。

歳時記は通常、春夏秋冬新年と五部にわけ、それぞれ時候・天文・地理・人事・宗教・動物・植物の七部類に季題が配列されている。俳諧歳時記で最も古いものは、野々口立甫りゅうほうが寛永十三年に上梓した『花花草草』で約六百の季題が集められている。現行歳時記ではその十倍、約六千（ただし傍題は含まず）の季語が登録されており、なかでも夏の季題が約千八百、そのなかでも人事五百八十、植物五百四十という高率を占めているのである。

生活の合理化、近代化にともない新しい季題はどんどんふえ、その代わりに時代の変遷によりさびしく消えてゆく季語の数も多い。たとえば、旧帝国時代の年中行事や式典のいっさいは、米国の講和批准によってほうむられ、新しい行事と祝祭がこれにとって代わり、越冬資金・夏季闘争・集団就職・愛の羽根・原爆忌・黄金週間・ナイター・アロハ・カーディガン・春一番・スモッグ・バードデーなどのニューフェイスが登場、それらのなかでも電熱器や夏時間は早くも消えてしまった例である。かつて新季題として時代の寵児の感のあった大陸季題や南方季語はもう歳時記から影をひそめてしまった。

とまれ、歳時記を推奨することは、楽しくもあり豊かにもなれるというものだ。

以上がこの一本を上梓した所以である。

目次

一月

.....13

一月 一日 新玉の年

二日 読初

三日 喰積

四日 羊日

五日 雪焼

六日 出ぞめ式

七日 七草

八日 二日酔い

九日 暖房

十日 今宮十日戎

十一日 鏡開き

十二日 寒波来

十三日 無菌ガキ

十四日 成人の日

十五日 小豆がゆ

十六日 着ぶくれ

十七日 金色夜叉

十八日 振袖火事

十九日 凍豆腐

二十日 白菜

二十一日 冬苺

二十二日 タートル・ネック

二十三日 虎落笛

二十四日 夜鷹蕎麦

二十五日 亀戸天神うそ替え

二十六日 風花

二十七日 雪割灯

二十八日 生類憐みの令

二十九日 杜氏来たる

三十日 雨乞い

三十一日 雪像

二月

.....45

二月 一日 露の臺

二日 凍蝶・凍鶴

三日 節分

四日 寒紅

五日 白魚めし
 六日 丹前たんぜん
 七日 小千谷おぢやの雪ざらし
 八日 針供養
 九日 急がば回れ
 十日 ままかり
 十一日 建国記念日
 十二日 春一番
 十三日 カマイタチ
 十四日 バレンタインの日
 十五日 海苔のり
 十六日 ひな売り場
 十七日 ハル
 十八日 ツバキ
 十九日 佐久の草笛

二十日 早春の味覚
 二十一日 試験勉強
 二十二日 荻稜草ほうれんそう
 二十三日 亀鳴く
 二十四日 雁風呂がんふうろ
 二十五日 梅が香
 二十六日 春の星
 二十七日 水菜みずな
 二十八日 三汀忌さんていぎ
 三月 一日 満州国
 二日 水温む

.....
 75

三日 耳の日
 四日 冴える
 五日 春の雪
 六日 地久節
 七日 啓蟄けいちつ
 八日 春告魚ニシン
 九日 蛙
 十日 比良八荒ひらはちろう
 十一日 春闘
 十二日 修二会しゅにえ
 十三日 深刻日
 十四日 マルクス忌
 十五日 霞・おぼろ
 十六日 タローカス
 十七日 うどんすき

十八日 スミレ

十九日 竜天に登る

二十日 山火事

二十一日 彼岸

二十二日 人力車

二十三日 卒業式

二十四日 かげろう

二十五日 電気記念日

二十六日 山笑う

二十七日 猫の恋

二十八日 利休忌

二十九日 道造とソネット

三十日 ハコベ

三十一日 表現について

四月

.....
107

四月 一日

エープリル・フー
ル

二日 復活祭

三日 東おどり

四日 緑の週間

五日 清明

六日 桜餅 さくらもち

七日 衣更 ころもがえ

八日 花まつり

九日 パンタロン

十日 料裁健母

十一日 春泥

十二日 羊の毛刈る

十三日 十三詣

十四日 お花見

十五日 ワサビ

十六日 老桜

十七日 花冷え

十八日 桜鯛 さくらだい

十九日 貝合わせ

二十日 切手週間

二十一日 壬生念仏 みよねんぶつ

二十二日 清掃の日

二十三日 小袖納 こそでおさめ

二十四日 辛夷 こがし

二十五日 薔薇と殿下

二十六日 春眠

二十七日 鐘供養

二十八日 青春

二十九日 天皇誕生日

三十日 風船

五月

.....139

五月 一日 黄金週間

二日 八十八夜

三日 憲法記念日

四日 こどもの日

五日 ナポレオン

六日 粽ちまき

七日 竹の秋

八日 逃はな水

九日 母の日

十日 アスパラカス

十一日 愛鳥週間

十二日 ナイチンゲール

十三日 ホトトギス

十四日 初がつお

十五日 落とし文

十六日 万緑

十七日 五月うるさ蠅い

十八日 蛸か蛸

十九日 薔薇白し

二十日 タマネギ

二十一日 三船祭みふねまつり

二十二日 卯の花腐うの花くたし

二十三日 初はつ吞

二十四日 若葉

二十五日 食堂車

二十六日 ボタン

二十七日 藤衣ふじころも

二十八日 朝顔の芽

二十九日 ライラック祭

三十日 自然暦

三十一日 サツキバレ

六月

.....171

六月 一日 蛇蜂取らず

二日 美魚醜魚

三日 雨男

四日 齒の予防デー

五日 ビアホール

六日 水虫

七日 計量記念日

八日 芒種ぼうしゅ

九日 夏帽

十日 時の記念日

十一日 入梅

十二日 子午線

十三日 住吉御田植神事

十四日 塩味

十五日 チヤグチヤグ馬ツ
コ

十六日 スズラン

十七日 蚊喰鳥かくいどり

十八日 ジュンサイと
ミヨウガ

十九日 桜桃忌

二十日 竹伐りき

二十一日 マスカット

二十二日 父の日

二十三日 香水

二十四日 洗い髪

二十五日 五月雨

二十六日 ミズバシヨウ

二十七日 封人の家

二十八日 レインコート

二十九日 粹人清風

三十日 六月祓みなづきはら
い

七月

.....
203

七月 一日 サクラランボ公害

二日 冷房

三日 サングラス

四日 紅花

五日 ハンコタンナ

六日 夏料理

七日 七夕

六日 メロン

九日 絹と紗

十日 四万六千日

十一日 セミ

十二日 沖繩の綱引き

十三日 汗

十四日 巴里祭

十五日 お中元

十六日 初ナスビ

十七日 祇園祭

十八日 土用

十九日 瓜

二十日 海の記念日

二十一日 不快指数

二十二日 海水浴

二十三日 大暑

二十四日 竜之介忌

二十五日 天神祭

二十六日 夜店

二十七日 そうめん

二十八日 花火

二十九日 アイスクリーム

三十日 夏靴

三十一日 湖水祭

八月

………
235

八月 一日 午睡

二日 吉備津彦御田植祭

三日 サマータイム

四日 昭和の年号

五日 夏は酸味

六日 原爆忌

七日 鼻の日

八日 立秋

九日 原爆公園

十日 涼し

十一日 ハンカチ

十二日 涼味演出

十三日 ラムネ

十四日 すだち

十五日 終戦記念日

十六日 大文字送り火

十七日 阿波踊り

十八日 オミナエシ

十九日 夜の秋

二十日 高校野球

二十一日 ハモ

二十二日 芙蓉

二十三日 処暑

二十四日 鶏頭論争

二十五日 白桃

二十六日 ルームクーラー

二十七日 ゆうがお

二十八日 すし

二十九日 残暑

三十日 秋魚記

三十一日 枝豆

九月

.....
267

九月 一日 二百十日

二日 レジャー考

三日 アカトンボ

四日 花野

五日 秋の装おい

六日 秋鯖

七日 白露

八日 千代女忌

九日 重陽

十日 白秋

十一日 百花園

十二日 ミミズ鳴く

十三日 ヘチマ

十四日 星月夜

十五日 敬老の日

十六日 仲秋の名月

十七日 虫の音

十八日 子規忌

十九日 秋思

二十日 かごめかごめ

二十一日 彼岸花

二十二日 秋分の日

二十三日 男心と秋の空

二十四日 秋味

二十五日 ボンタン

二十六日 台風

二十七日 ドブクロク

二十八日 人間

二十九日 包丁

三十日 蠶螂

十月

299

十月 一日 大東京祭

二日 栗羊かん

三日 ニジマス

四日 コスモス

五日 赤い羽根

六日 りんどう

七日 公害

八日 寒露

九日 ナシ

十日 目の愛護デー

十一日 お会式えしき

十二日 芭蕉忌

十三日 十三夜

十四日 鉄道記念日

十五日 上着の季節

十六日 秋の酒

十七日 貯蓄の日

十八日 菊供養

十九日 仏滅追放

二十日 さわやか

二十一日 神戸港まつり

二十二日 鞍馬の火祭

二十三日 月下氷人

二十四日 灯火親しむ

二十五日 シャンピニオン

二十六日 新聞週間

二十七日 ハタハタ

二十八日 かやくめし

二十九日 おでん

三十日 紅葉忌

三十一日 落ち葉

十一月

331

十一月一日 通過儀礼つうかぎれい

二日 椎茸

三日 文化の日

四日 一の酉

五日 開炉

六日 霜月

七日 立冬
 八日 伏見稻荷お火焚祭
 九日 太陽曆採用
 十日 カボス
 十一日 さざんか
 十二日 極東軍事裁判
 十三日 二の酉
 十四日 千刈切唄
 十五日 七五三
 十六日 墓祖
 十七日 茶
 十八日 つわぶき
 十九日 一茶忌
 二十日 火事
 二十一日 神農祭

二十二日 桐一葉
 二十三日 勤労感謝の日
 二十四日 風呂吹
 二十五日 木の葉髪
 二十六日 ミノムシ
 二十七日 ショウビダキ
 二十八日 お葉漬
 二十九日 頭寒足熱
 三十日 二〇三高地
 十二月

 十二月一日 映画の日
 二日 広島菜漬け

三日 芳香炉
 四日 フグ
 五日 忌みことば
 六日 足袋^{たび}の歴史
 七日 大雪
 八日 太平洋戦争
 九日 漱石忌
 十日 焼いも
 十一日 紙衣^{かみこ}
 十二日 お歳暮
 十三日 ねんねこ
 十四日 義士討ち入り
 十五日 賀状書く
 十六日 電話交換
 十七日 羽子板市

十八日 疊替え

十九日 顔見世

二十日 冬の味覚

二十一日 冬將軍

二十二日 冬至

二十三日 プリ起こし

二十四日 七面鳥

二十五日 蕪村忌

二十六日 チョッキの美学

二十七日 炉辺の幸福

二十八日 忘年会

二十九日 シクラメン

三十日 師走

三十一日 年越しソバ

1月

JANUARY



あらたま 新玉の年

一月一日

「新玉の」は年、月、春などにかかる枕詞である。新玉とは、地より掘り出したばかりの玉で、あらたは生立あれたての略転。未だ磨いていない玉は砥とでもって磨く故、としのとにかかるわけ。

また「あらたま」は「新見あらみ」のことで、新に見ることの意だという説もある。

文化五年に出た『改正月令博物箋』によると、「△新玉の年▽といふは、改まる年といふなるべし。万葉には、△荒玉の年▽とあり。玉といへるものは、宝の内なれば、年の始めに祝ひて、かくはいふなるべし」とある。

天明三年刊の『年浪草』によると、「玉はまろばすに、滞らず走るものなれば、とき心なり。」とあって、まさに諸説ふんぶんだが、そこがまた、日本語のいいところで、さまざまに解釈のできるニュアンスに富んだ、多面的なことばということもできよう。

昔、馬上で兵統すべし記憶 初日の出